

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策	成果と今後
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」や、「書くこと」において、目的を意識して、大事なところを捉えて聞き取ったり、相手に自分の思いや考えを分かりやすく伝えること。 ○「読むこと」において、場面と場面のつながりを意識したり、具体例を比較したりしながら、登場人物の変容や筆者の考えや段落の要点を正確に読みとること。また、読み取ったことや自分が考えたことを、言葉で伝え合い、考えを広げていくこと。 ○漢字の習得に個人差が大きいこと。学習した漢字を正しく読み書きできるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞くことについては、聞き取った後に要点を確認し、振り返る時間を設ける。話すこと、書くことにおいても、話題の中心は何か、伝えたいことは何かをはっきりとさせる。また、相手に伝わるか、自分だけではなくペアやグループで確認するようにする。 ○表にまとめて内容を整理させたり要約をさせたりするなど、場面を捉えやすくする。自分の考えを整理する時間を十分に確保し、交流する機会を増やす。 ○小テストを行い、児童自身が習熟を確認できるようにする。また、既習の漢字を使う機会を意図的に増やし、学習した文字の習熟を図っていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」のスピーチや、「書くこと」において、話題の中心についてははっきりさせるように指導することで、伝えたいことがはっきりとしたものになった。 ○「読むこと」において、言葉に着目させることで、登場人物の気持ちや行動の変化、筆者の考えや段落の要点を読みとることができるようになった。 ○国語辞典を活用し新出漢字を使った文章を書く活動や作文の学習などを通して、既習漢字を使おうとする意識が高まった。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝えるために、適した事例を挙げられるように例を示したり、全体と一緒に考えたりしていく。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○地図帳やグラフ、絵、写真など様々な資料の扱いに慣れ、資料から様々な視点で事象を読み取れるようになること。 ○調べたことをもとに、自分の考えをもち、その考えを分かりやすくまとめたり、友達に伝えたりすること。 ○学習内容と自身の生活をつなげられるようになること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの資料を全体で読み取る際には、様々な視点で読み取れている児童の考えを全体に共有していく。個別で調べる学習を進めるときには、習熟度に合わせた資料を複数用意する。 ○単元計画を立てる際に、課題をはっきりさせ、自分の考えをもてるようにする。自分の考えをまとめる時間を十分に確保し、伝え合う時間を増やす。伝え方とまとめ方の良い例を提示する。 ○調べたことや学習したことについて、その特色や自身の生活とのつながりを考えるための学習活動をしたり、問いかけをしたりしていく。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が資料から読み取ったことを全体に共有したことで、地図帳やグラフ、年表他、様々な資料の扱いに慣れ、様々な事象を読み取れるようになった。 ○資料から様々な事象を読み取ることで、社会的事象の背景には、人々の思いや工夫があることに気が付けた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な社会的事象に対して、自分たちの町や、自分なら何ができると考える時間を設ける。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、図や式、言葉と関連付けて表現することが課題である。 ○立式や計算の仕方を考える時、自分の考えや友達の考えを比べ、多様な解決方法があることを受け入れることが課題である。 ○重さや長さ、かさの小数を用いた単位変換について理解することが課題である。 ○正しく計算する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の初めに既習事項を振り返り、自分で考えるための基盤を整備する。めあてをよく吟味し、何を考えさせるのか意識させる。児童が自分の考えを書く時は、式だけでなく、言葉と図も書かせるように指導する。 ○ペアやグループで発表する時間を十分に確保し、友達の考え方のよいところを取り入れるように指導する。 ○図や具体物を用いることで、数値を機械的に操作するのではなく、数量感覚が育つようにする。 ○日常的に1分計算などを取り入れ、定着を図る。 	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループでの活動を確保することで、児童は、友達の考えのよいところを取り入れることができた。また、電子黒板を使って様々な図を用意したり立体的に図形を提示したりすることで、数量感覚や図形感覚を養うことができた。 <p><今後></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識を身に付けさせるために、日常的な活動を取り入れ、確実な定着を図っていく。 ○自分の考えを相手に伝えるために、図を活用していくことを指導していく。

理科	<p>○学習問題を立てることができるが、観察・実験によってどのようにその問題を解決するかといった見通しをもつことが課題である。</p> <p>○観察・実験の手順は理解しているが、目的に即した観察や測定ができず、単なる作業になってしまふことが課題である。</p> <p>○観察・実験で得られた事実をもとにして考察を行う際、自分の言葉で筋道立てて説明することが課題である。</p>	<p>○児童が主体的に問題解決の方法を考えられるように、予想とその理由を明確にし、観察・実験計画を立てる場面を丁寧に設定する。既習内容や生活経験との関連を意識させながら助言を行う。</p> <p>○観察・実験のねらいを明確に伝え、どこに着目して観察するのかを事前に共有することで、課題意識をもって活動できるようにする。</p> <p>○結果と考察を区別して記述する場面を設けるとともに、友達との意見交流や全体でのまとめの場を通して、事実に基づいた論理的な説明の仕方を身に付けられるように指導する。</p>	<p><成果></p> <p>○既習事項や生活経験と関連付けて予想を立てさせることで、見通しをもって観察・実験に取り組むことができるようになった。</p> <p>○観察や実験のねらいを明確にすることで、目的に即した活動ができ、結果を整理して考察する力が高まった。</p> <p>○結果と考察を区別して記述させることで、事実を根拠に自分の考えを説明しようとする姿が見られるようになった。</p> <p><今後></p> <p>○観察・実験の結果を比較し、共通点や相違点から規則性や関係性を見いだせるよう、学習問題に立ち返って考える場を大切にしてい</p>
音楽科	<p>○主体的に音楽の授業に取り組む雰囲気があり、恥ずかしがらずに音楽的な表現を楽しみ、自らの思いを表現に生かすことができる児童が多い。一方で、活動への意欲を十分に引き出せず、集中できない場面もあった。</p>	<p>○視聴覚教材を効果的に取り入れたり、友達の演奏を聴いて感想を伝え合ったりする機会をとり、児童がすすんで表現してみようとする雰囲気を作る。</p> <p>○教師が話しすぎ、児童が受け身になっていないかを意識し、児童が主体者となって意欲的に表現活動を行えるようにする。</p>	<p><成果></p> <p>○歌詞を思いを込めて、フレーズごとの強弱を感じて表現豊かに歌えるようになってきた。</p> <p>○鑑賞の授業では、知覚したことや感受したことを互いに発表し、活発な意見交換ができた。</p> <p><今後></p> <p>○音楽会での経験を活かし、これからも児童が表現楽しさを感じられるような授業計画を立てる。</p>
図画工作科	<p>○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む児童が多い一方で、自分のイメージを造形的な特徴をもとに表すことが難しい児童も見られる。</p>	<p>○様々な表現方法を経験させ、表現の幅を広げ、どの児童もつくり出す喜びを味わうことができるよう指導する。導入で ICT 動画や画像、または教師がつくっている様子を実際に見せ、表現方法のイメージをもちやすいよう指導する。</p>	<p><成果></p> <p>○主体的に活動に取り組み、自分のイメージを造形的な特徴を生かして表すことができた。</p> <p><今後></p> <p>○発想するのが苦手な児童には、個別に支援をし、スモールステップでの指導を行う。</p>
体育科	<p>○グループでの作戦会議や話し合いをする際に、どのグループも積極的に取り組む一方で、意見を発する児童は、固定化されてしまっている。</p> <p>○運動の内容により、経験の少ない児童の意欲を高めること。</p>	<p>○取得させたいポイントや技などをわかりやすく提示する。また、一人一人に役割を設定し、全員が学び合いに参加できるようにする。</p> <p>○一人一人の運動能力に合わせてワークシートを活用しながらめあてを設定させ、自分の課題に取り組めるように授業を計画する。</p>	<p><成果></p> <p>○ホワイトボードや黒板を用いて、視覚的にポイントや技、場の準備などを提示できた。工夫や作戦も数多く生まれ、実践できた。</p> <p><今後></p> <p>○振り返りや次時の内容等、体育の授業内に完結できないことがあったため、1時間の流れをより計画的に進めていく。</p>

<p>外国語活動</p>	<p>○習熟度によって、児童の学習意欲に違いがでることがあった。さらなる児童理解に努め、児童の既習内容や習熟度に合った授業展開をしていくことが課題である。</p>	<p>○語彙力強化を狙いとしている活動では、教師はデモンストレーションを行いながら短時間で簡潔に児童に説明ができるよう工夫をして、児童が伝えたい内容を整理する時間が作れるように努める。教師が単語でも答えられるような指導を行うことで、児童の伝えることへのハードルを下げられるようにし、クラス全体が活発に活動できるようになると考える。</p>	<p><成果> ○「聞くこと」において、日本語と音声やリズムの違いを気付かせる指導をすることで、児童は英語がもつ音のパターンやイントネーションに慣れ、より正確に理解できるようになった。 ○「話すこと」において、児童が英語で表現する経験を積み、発音やイントネーションの改善を行うことで、自信をもって英語を使うようになった。 <今後> ○発表などでは一人の英語を話す時間が限られてしまうので、インプット（聞くこと）とアウトプット（話すこと）のバランスを考えて、単元計画や1単位時間の授業計画を立てていく。</p>
<p>道徳</p>	<p>○教師が価値に迫れる発問を吟味し、児童の実態に合わせた授業を構成していくことが課題である。</p> <p>○児童が、価値を一般化して日常生活にしっかり生かせるようにしていくことが課題である。</p>	<p>○日頃から児童の実態について共通理解をし、教師が教材分析を十分行った上で、実態に即したねらいを設定する。その上で、価値に迫れる発問を決めていく。</p> <p>○学習の後半に振り返る時間を設け、学習内容と自分との生活をつなげられるようにする。また、価値を意識した振り返りができるよう、ペアやグループなどでの話し合いを有効に活用する。</p>	<p><成果> ○価値項目に対する考えなど、多様な発問を行ったことで、自分の経験を振り返り、児童の多様な考えを引き出すことができた。 ○グループワークやペアワークなど、多様な授業形態を取り入れたことで、友達の考えを知り、自分の考えを見つめなおすことができた。 <今後> ○教材や内容項目によって、児童の発言が偏ってしまうことがある。どの教材や内容項目においても、児童の実態に照らし合わせた展開を考え、指導していく。</p>
<p>総合的な学習</p>	<p>○「情報の収集」の段階で、漫然と調べ学習を進めることがないように、興味、好奇心を引き出す工夫をすること。</p> <p>○図書やインターネット等で示されている情報を、誰かの個人的な意見であったり、他所からの転用であったりする可能性があるにも関わらず、そのまま客観的な事実として捉えがちであることが課題である。</p>	<p>○「課題の設定」の段階で、学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫することで、児童が課題意識を明確にもち、それが連続発展していけるようにする。</p> <p>○「整理・分析」の段階で、収集した情報について、どのように入手した情報なのか、どのような性格の情報なのかということを踏まえて整理させる。</p>	<p><成果> ○他教科の学習を踏まえて単元の導入を図るなど、学習対象との出会わせ方を工夫したことで、児童は課題意識を高めていた。 <今後> ○収集した情報についての吟味がまだ不十分な児童が多い。地道に丁寧に指導をする。</p>